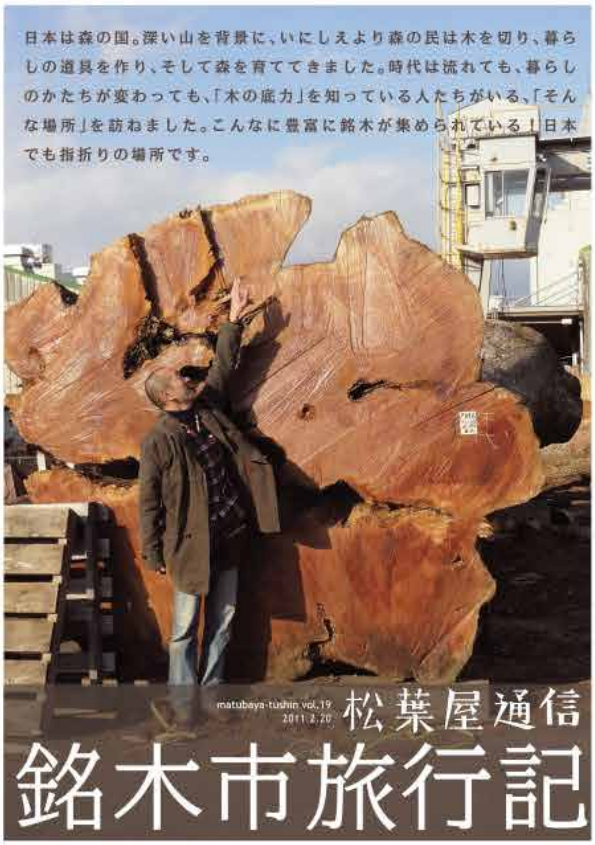
松葉屋通信

vol.27
2014.1.30

銘木市旅行記 PARTⅡ

今から3年前の冬、一枚板の元となる銘木市を訪ねました。右の松葉屋通信はその時のものです。
今回銘木市に伺い、市場の方にお話をお聞きしました。1本の大木が一枚板になるまでの流れをお聞きし、あらためて一枚板の魅力と価値を最確認できました。



2011年2月20日 vol.19の松葉屋通信

銘木市場を支える人たちの実情と想い

日本の銘木市場の現状

善五郎　最初にうかがいたいのは「銘木」の定義です。一般的に天然木から想像すると、家を建てる時に使う柱などの建築材をイメージしますが。

伊藤　「銘木」というのは主に稀少価値や鑑賞価値がある木材の総称です。

上杉　樹齢が古い大径木をさす場合もあります。建築部材では、和室の構造材ではなく〝みせる部分〟に使われるほうが多いです。

善五郎　なるほど。

伊藤　一枚板に関しては昔も今も需要はありますが、時代の移り変わりで、和室をつくる方が減ってきていますので、時代のニーズにあわせた品物づくりもしています。

善五郎　ここ(銘木市)は他の市場と比べ、一枚板の製材が充実しているので、いつも買い付けさせていただいているんですが、他の市場は衰退していると聞きます。岐阜という土地になにか繁栄の秘密があるんですか？

上杉　現在も全国銘木連合会の下で残っている市場は秋田、東京、岐阜、大阪、京都、奈良。東京、大阪を除いて杉の産地の市場は残っています。

伊藤　四国、茨城、九州、愛知にも市場ありましたが時代の変化についてこれませんでした。岐阜が今も残っているのは、大径木の無垢材を取り扱っていたことでですね。

善五郎　他の市場はどういう状況なのでしょうか。

上杉　あまり一枚板は扱っていないですね。特に一枚板の大径木の広葉樹ということで、扱いは限られてしまいます。岐阜は産地であり、日本の真ん中と

岐阜　銘木市場

まず目に飛び込んで来たのは、居並ぶ巨木たち！圧倒的というだけでは言い表せない巨大さと量にテンションが上がりっ放し！全部持って帰りたい！その衝動を抑えるのが大変です。

製材間もない、背丈を遥かに超える栃の一枚板。瑞々しく、輝くような、ため息が出るほど美しい板です。
興奮！興奮！また興奮です！

一枚一枚、食い入るように板を選定していきます。全部欲しくなってしまいますが、そこは限度があります。仕上がり具合と、お届けしたお客さまのお部屋や暮らしまで想像しながら選んでいきます。

という立地で集中しているんです。丸太を製材する生産業者も、全国的に多いのも集中する理由です。

製品になるまで3年から5年以上

善五郎　全国から集まる大径木はどのように見つけてくるんですか？

伊藤　丸太を切り出している業者が地主から買うこともあれば、道路整備の一環で着る場合もあります。また、欲しい木を業者に直接伝えて切る場合も。

上杉　丸太は切って使える材になるまで5年以上はかかるんです。良いと思った丸太でも、割ってみたら大穴があいていたり…。ここで見ていただいている材は本当に希少ですね。高価な一枚板ですので、これからは産地をお知らせできるよう付加価値をつけていきたいと思っています。

善五郎　山から切ってきて製品になるまでの流れを教えてください。

上杉　山奥の木は切ってから、ヘリコプターで運ぶこともあります。通常現場である程度の大きさに切りますが、出しやすい場所であれば長いまま市場へ運びます。それを製材業者が買い、製材。そのまま小売に行く場合と、さらに市場へ売り出す場合があります。

伊藤　そこから5年以上は天然乾燥させ、製品として加工していきます。

善五郎　私どもは製材ののち完全に天然乾燥したものを買い付けさせていただいてます。とても時間のかかるものなんですね。

銘木市場を預かる私たちの役目

善五郎　生きている木を切り続けるわけですから、年々減っていきますよね。

伊藤　材の枯渇は顕著に感じています。材が減ってきている中で、市場が減ったこと、需要が減ったことがバランス的にはちょうど良いですね。

善五郎　森を守る観点で、材木業者としてどのように考えていますか？

上杉　切り出す代わりに欅と栃は山に植える活動もしています。でも、難しいですね。貴重なものだから銘木と名がつくわけですし。私たちの役目は樹齢何百年という大径木の価値をしっかり伝え、大切に長く使っていただくよう啓蒙することだと思っています。

善五郎　私も今後、お客様に銘木の価値をお伝えできるようがんばります。本日はありがとうございました。

vol.4　マルクトプラッツ

おくりもの展

こんな風でした！

好きな木のリボンでラッピングしてもらいました。

プラットファイルさんでのプレオープンのようす。

去年の暮れ、この１年でつながった作家さんたち１３組による「おくりもの展」をひらきました。お目当ての作家さん目指してつぎつぎ人があつまり、松葉屋のあちこちに笑い声がひびきました。
「あの人にこれを」「自分にもおくりものしたいなー」と気持が高まり、作家さんも私たちもおくりもの選びに夢中になった２日間でした。

ワークショップ　その１

おなじみのキャンディでクリスマスオーナメントをつくりました。いつものおやつが、こんなにかわいくなるなんて。またまた相澤さんのセンスに感心。

ワークショップ　その２

草木染め糸で、指だし手袋を編みました。わからないと、すぐ十糸さんがみてくれるので、はかどっているようす。編み物している姿は冬の風物詩ですね。

おくりもの展が終わってしまって、仲良くなった仲間たちとも、もうお別れ。ちょっとさみしい気持とともに記念撮影。

ch.books 出張カフェのおいしい！スコーン。今回もやっぱり大人気。

花びらと一緒に、春の香りをお届けします。

「もうすぐやってくる春を思わせる優しい甘さの中に、すっきりとクリアな印象を感じられるブレンドです。
1／31の新月の日に位置する水瓶座に象徴されるオイルもブレンドされています。めぐる季節を香りでも感じて、皆さんが元気に春を迎えられるようにという願いもこめて…」。たなこころさんがメッセージとともに、春の香りの精油をブレンドしてくれました。
ネロリ、サイプレス、ユーカリラディアタ。ネロリは橙（ビターオレンジ）の花の精油で、不安をとってくれる効果もあるとか。香水に使われる希少で高貴な香りはお値段もはりますが、おもいきって、えらびました！
いかがですか？ぜひ感想をおきかせください。

橙　ダイダイ
ミカン科ミカン属

松葉屋通信　vol.27

発行所　松葉屋家具店＋くらし道具学研究所
〒380-0841
長野市大門町45
TEL 026-232-2346
FAX 026-237-4558
since1833@matubaya-kagu.com
（水曜定休）

発行日　2014年1月30日

©松葉屋家具店＋くらし道具学研究所
Copyright ©2010 Matubayakaguten Co., Ltd.
All rights reserved.

アロマトリートメントルーム　たなこころ　〒381-1303　長野県上水内郡信濃町野尻 1197-471
Tel 026-258-3117（女性専用／携帯 080-1437-6065）営業時間／AM10:00～
＊JR 黒姫駅より車で 10 分／上信越自動車道、信濃町 IC より約 5 分

松葉屋の情報をフェイスブックページでお知らせしています。ぜひ「いいね！」してくださいね。
https://www.facebook.com/matubaya